

サンゲツグループ企業倫理憲章

企業は社会の公器であり、健全な事業活動を通じて収益をおさめ、活力ある発展と社会への還元を図らねばなりません。サンゲツグループは、その基本的な考え方に基づき、価値ある商品とサービスを提供することにより、豊かな住生活の実現に寄与し、社会に貢献します。

そしてその実現にあたって、サンゲツグループでは「企業倫理憲章」として5つの原則を掲げ、持続的発展に向けて自主的に行動します。

地球環境を守るために

地球環境問題への取り組みは、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動します。

※「サンゲツグループ企業倫理憲章」から、環境に関する記載を抜粋

環境方針

当社では、環境保全に取り組んでいくことは、より良い住空間を提供する企業として当然の責務と考え、環境理念・環境方針を定めています。この方針に基づき、環境マネジメントシステムを運営し、継続的な環境保全活動を推進します。

※2001年6月「ISO14001」認証取得

基本理念

サンゲツは、快適な住空間の提供を通じ、より豊かな生活を実現するための役割と責任を担っている。

当社の事業活動は環境との関わりが深く、その活動の中で環境保全に取り組んでいくことは、企業として当然の責務である。これらの観点から、自らの事業活動における環境負荷の低減はもとより、地球環境の保全に配慮し、より良い住環境の創造に努める。

基本方針

1. 環境マネジメントシステムの推進にあたり、環境目的及び環境目標を設定し、継続的改善を行い、企業活動と地球環境保護の両立を図る。
2. 適用可能な環境保全に関する法令及び当社が同意する要求事項を遵守する。
3. 商品の開発、生産、流通、使用、廃棄のすべての段階において、環境影響要因物質の使用の回避、廃棄物の削減、リサイクル、省エネ・省資源に努める。
4. 環境方針や環境管理活動への社員の理解と意識の向上を図るとともに、関係者へも環境方針を周知し、理解と協力を要請する。
5. この環境方針は、一般に公開する。

ESG/CSR方針

中期方針

1. サンゲツグループの事業全体の環境負荷を把握。
2. 地球温暖化防止や持続可能な資源循環に向けての体制を構築。

実践内容

(1)事業活動における環境負荷の低減

- ・ GHG排出量の削減
- ・ エネルギー使用量の削減
- ・ 廃棄物総廃棄量の削減
- ・ リサイクル率向上

(2)サプライチェーンにおける環境負荷の把握と低減

- ・ サプライヤーごとのGHG原単位の把握と、調達活動での考慮
- ・ グループ環境負荷の把握と低減プラン策定

(3)環境商品の開発・拡充

- ・ 高耐久性商品の開発、長期継続品の拡充
- ・ 低炭素、資源循環に資する商品の開発

(4)見本帳の回収・リサイクル体制の構築と拡大

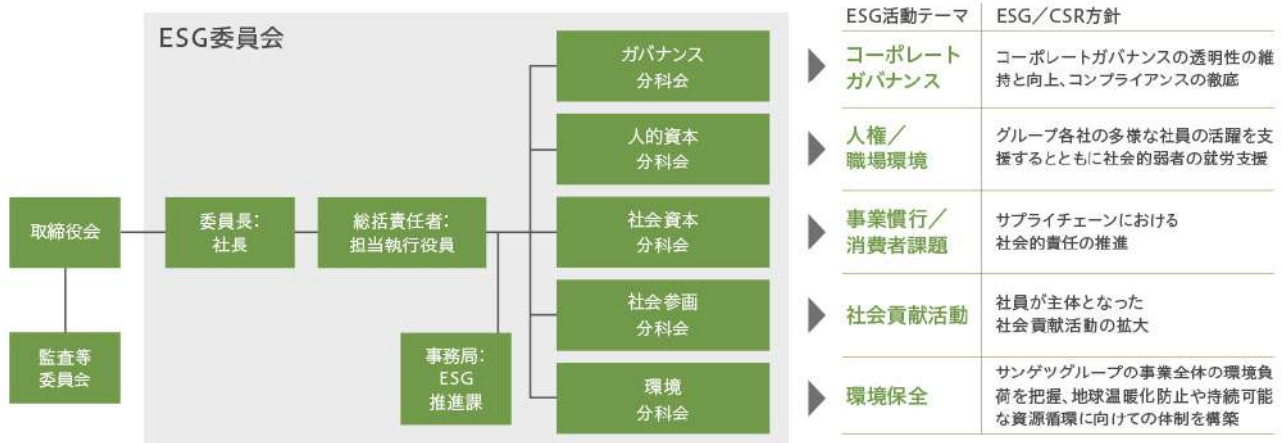
ESGマネジメント体制

当社は、企業の社会的責任を果たすため、2016年4月にCSR推進課を新設、2017年4月には社長を委員長として、全社を横断的に統括するCSR委員会を設置しました。

さまざまなESGに関する国際的なガイドラインなどに対応すべく、分科会を設け、実効的なESGマネジメントを行い、社会課題解決に向けた取り組みを進めています。

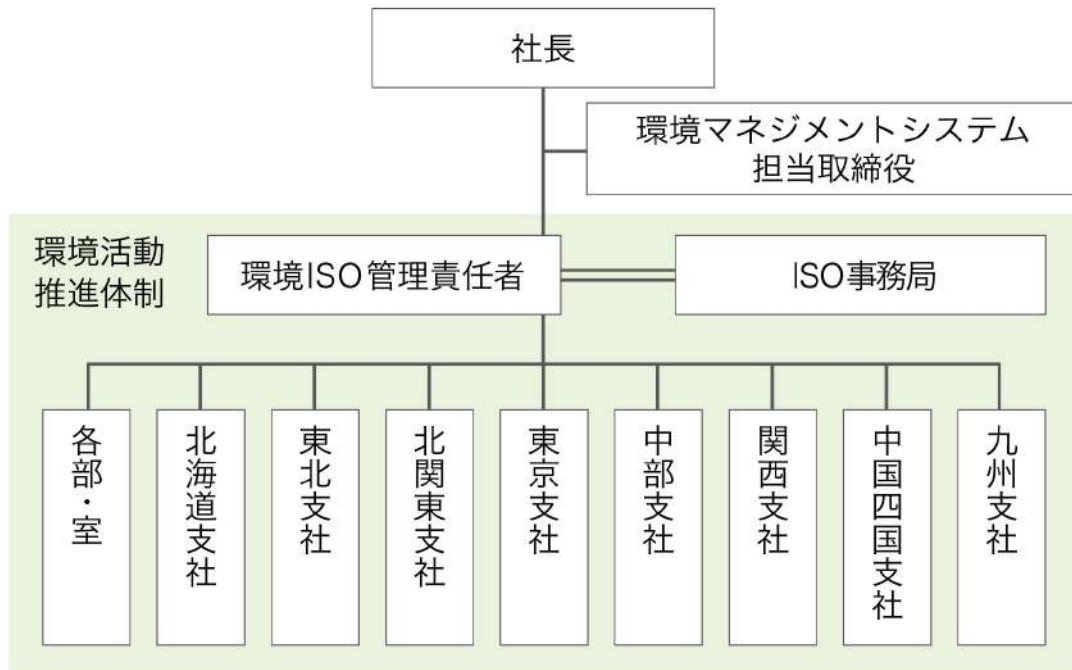
2020年11月からは、ESG全般を推進する部署としての位置づけを明確にすることを目的として、ESG推進課、ESG委員会に名称変更しております。

また、気候変動を含めた環境課題については、環境分科会での取り組み事項として上位機関を通じて取締役会への報告と対応を行っています。



環境マネジメント推進体制

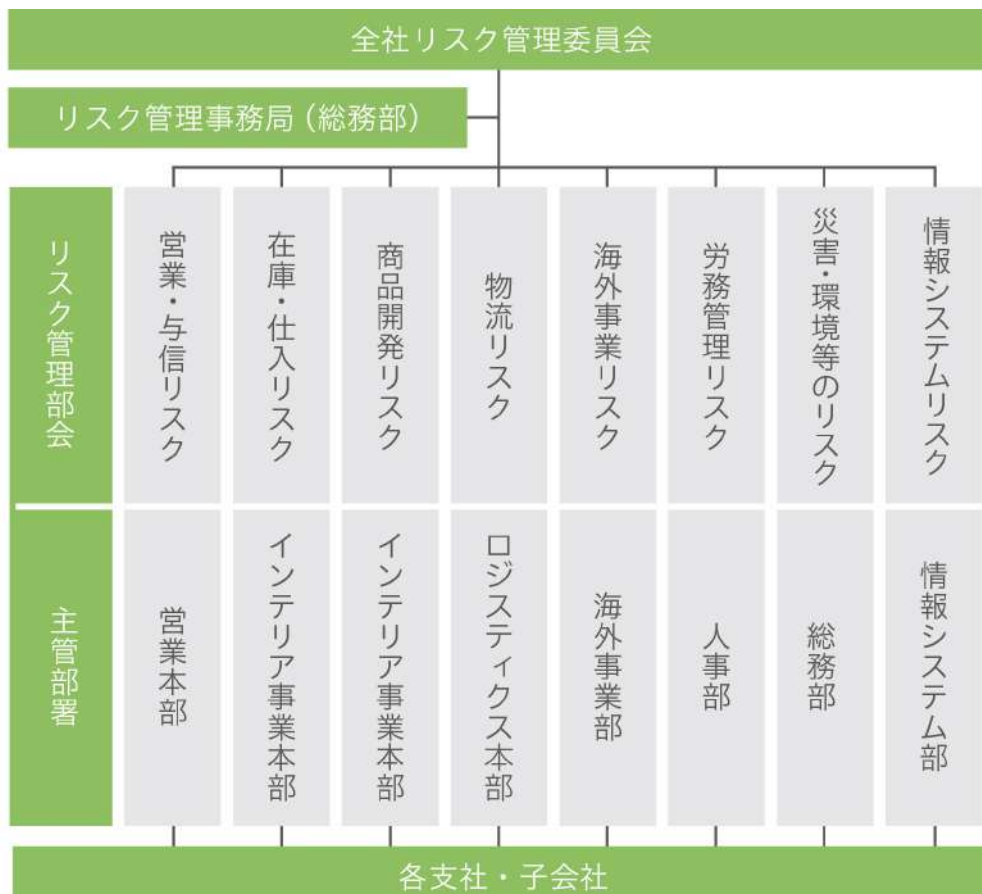
当社ではISO14001の認証を取得しています（認証範囲の従業員比率38.5%）。環境マネジメントシステムを統括する環境ISO管理責任者のもと、これを補佐するISO事務局を設置し、各事業所において環境活動を実施しています。



※ISO14001の認証範囲(本社、中部支社、中部ロジスティクスセンター)

気候変動／環境リスクマネジメント体制

当社では、気候変動を始めとする環境リスクを事業運営に障害を引き起こすリスクとして考えています。特に気候変動の原因となる事業活動に伴うGHG排出量を管理し、目標値を設定して排出量低減活動を行っています。その活動の進捗状況は、災害等リスク部会からリスク管理委員会に報告され、さらに取締役会においてリスク管理委員会から報告、管理監督を受けています。



サプライチェーンにおける環境配慮

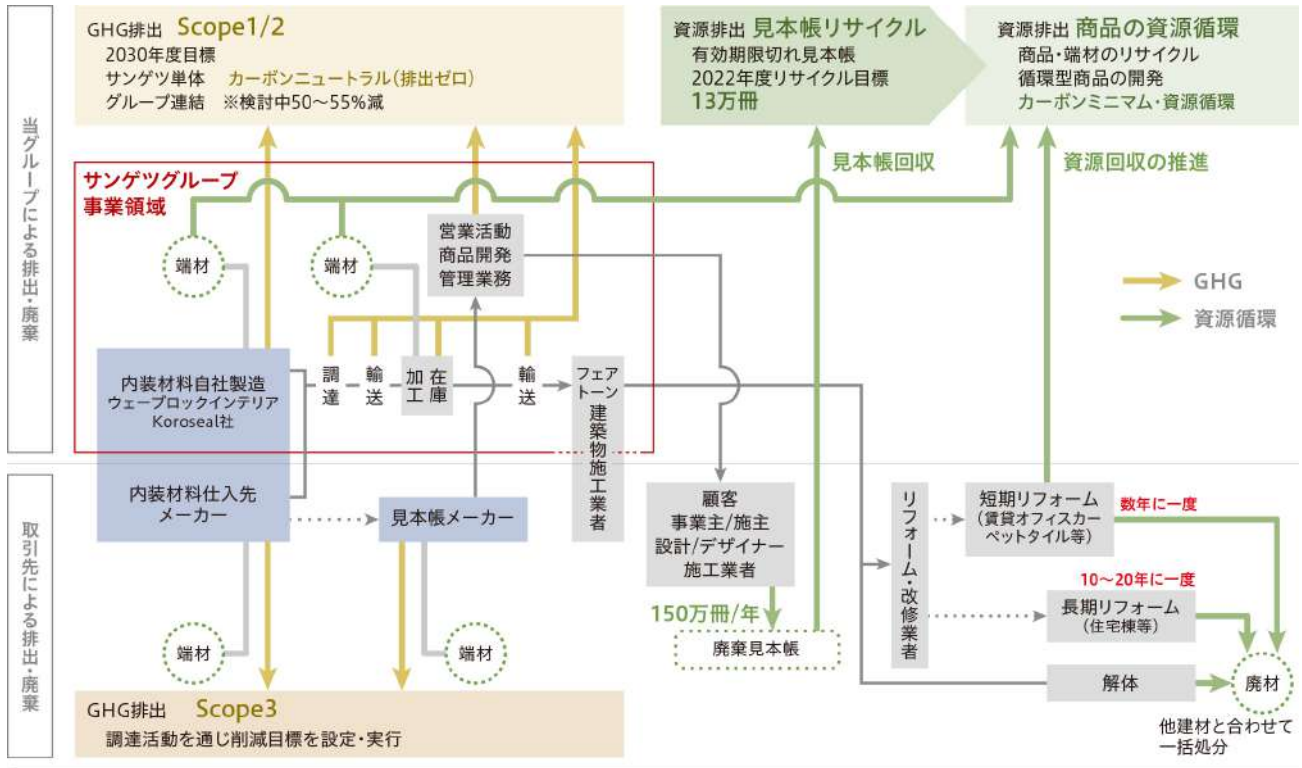
当社の事業活動は商品開発・流通を主体にしています。

商品製造については仕入先に委託していますが、高品質で環境に良い商品を提供するために、商品のライフサイクルを通じた環境負荷低減活動を継続する必要性があると考えています。

これまで当社は、当社基準の評価項目に沿って仕入先評価と工場運営の改善・環境対応・商品の品質向上につなげてきました。また、中部ロジスティクスセンターⅡに環境試験室をはじめとする試験施設を設置の上、適切な品質管理体制を整備しています。現在、当社ではサプライチェーンにおけるCSRへの取り組み強化に向け「サンゲツCSR調達方針」および「サンゲツお取引先さま向けCSRガイドライン」を策定、仕入先の対応状況についてアンケート調査を実施し、必要に応じて訪問指導を行うなどの対策を講じることで、環境対応についての体制づくりを進め、環境負荷低減を推進しています。

サンゲツを取り巻く環境負荷の状況

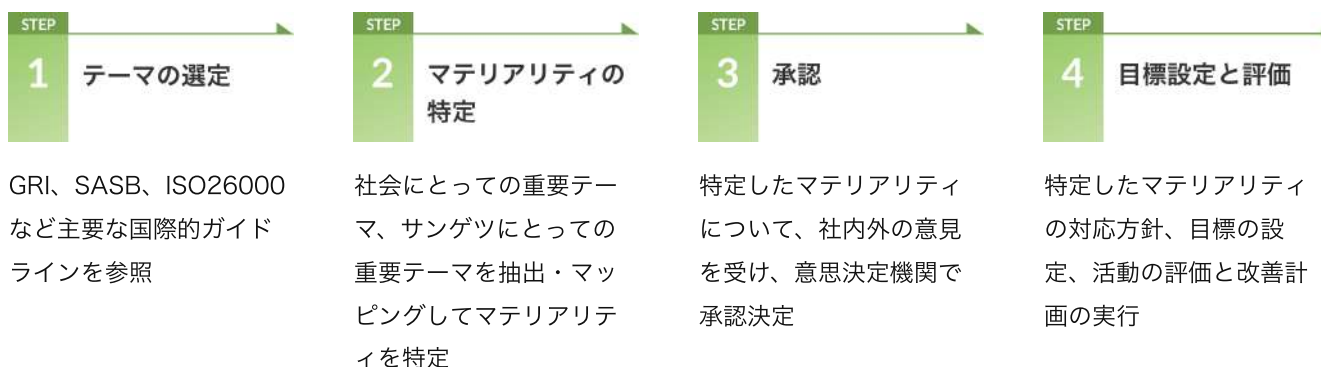
事業を行っていく上では、自社以外にも仕入先、取引先、使用後などさまざまな状況・場所において環境負荷が発生しています。当社ではこのそれぞれのスコープにおいて環境負荷の状況を把握し、環境負荷を低減する取り組みを行っています。



Scope1 : 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)
 Scope2 : 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
 Scope3 : Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

マテリアリティ（重要課題）

サンゲツグループは、社会的要請や当該業界の重要テーマを踏まえ、社会および長期投資家にとっての重要度と当社事業の持続的成長への影響からマテリアリティを特定しました。これらのテーマは、長期ビジョンの実現に向けての重要項目でもあり、事業計画と連動しながらPDCAサイクルを回していきます。



当社では、環境面における重要課題を以下の4つと捉え、それぞれの課題に対して取り組みを行っていきます。

事業活動における環境負荷	GHG排出量・エネルギー使用量の削減、廃棄物の削減、リサイクル率の向上 詳細はこちら：P17「気候変動」、P28「資源循環」
サプライチェーンの環境負荷	グループ環境負荷の把握と低減プラン策定 詳細はこちら：P23「スコープ3への対応」
見本帳リサイクル	リサイクル処理キャパシティの向上、リサイクル率の向上 詳細はこちら：P31「sangetsu 見本帳リサイクルセンター」
環境商品の開発	低炭素、資源循環に資する商品の開発 詳細はこちら：P37「商品を通じた地球環境保全」